

2018年度「教員相互による公開授業参観」

—「公開授業参観報告書」について—

2018年度後期に実施しました「教員相互による公開授業参観」に関する「公開授業参観報告書」の全面公開を行います。昨年度に引き続き後期だけとなっております。

「教員相互による公開授業参観」については、2014年度実施分までの成果と課題の総括を踏まえて、教員の教授力の向上を図る研修会の実施、従来の紙媒体による報告書の改善等を検討してまいりました。

これまでは、公開授業の一覧表を作成し参観の希望を受け付けていましたが、時間的制約のため参観が難しい等の理由で公開しても参観者なし、という授業が散見されました。今回「教員相互による公開授業参観」を再開するにあたり、約1カ月間、すべての授業を公開とし、互いに参観しやすい期間を設けました。

また、紙媒体による報告書をメールで提出できるよう変更し、報告内容も参観者からのコメント欄を充実させ、授業担当者がより活用しやすくというねらいで改訂しました。学生の態度や動き等も含め、参観者のコメントが授業担当者に新たな気づきをもたらし、授業改善につながることを期待するものです。

報告書の全面公開により、実際に授業参観をされなかった教員にも、種々のインプットが得られるのではないのでしょうか。各教員が抱えている教育上の問題を共有し、解決のためのヒントを得ること、また教育上参考になることを少しでも多く得られることができると願うものです。こうした意図やねらいがどの程度実現されているかご思料頂ければと思います。

※報告書は開講科目の属す学科ごとに振り分け、保育学科、ライフデザイン総合学科の順で掲載しています。学科内では各学科長以下は参観授業の参観者氏名順を基本として掲載しています。また、「公開授業参観報告書」目次も作成しておりますので、ご参照のうえ閲覧下さい。

平成31年3月

FD 委員長
榊原 和子

平成 30 年 10 月吉日

各 位

四條畷学園短期大学 FD 委員会
副学長・FD 委員長 榊原 和子

「教員相互による公開授業参観」の実施について

平素より本学の教育・学生指導にご尽力賜り、心より厚く御礼申し上げます。

さて、2017 年度より新方式で実施してまいりました「教員相互による公開授業参観」を、今年度も同様に下記の要領で実施いたします。

なお、期間中であれば、専任・非常勤すべての教員の授業をご都合のつく時に随時参観が可能になります。授業担当の先生方におかれましては、参観者がいることで授業の進行および学生の学修に重大な支障が生じる懸念のある場合を除き、参観をご許可下さいますようお願い申し上げます。

以上、何卒ご理解いただき円滑な実施にご協力いただくとともに宜しく願いいたします。

記

目 的：授業の改善に役立てる

実施期間：平成 30 年 10 月 29 日（月）～11 月 24 日（土）

公開授業：期間中に実施されるすべての授業(授業内容によっては、参観が無理な場合もございますので、事前に参観希望のご連絡をおとりください)

参観回数：専任教員 1 科目以上（非常勤の先生方：任意）

※『公開授業参観報告書』のご提出を「参観した授業ごと」をお願いいたします。

ユニパ掲示板より書式をダウンロードし、作成後、メールでご送付下さい。

なお、公開授業参観報告書は、本学ホームページでの公開を予定しております。
あらかじめご了承下さい。

メール宛先:FD 委員 安谷 (m-yasutani@jc.shijonawate-gakuen.ac.jp)

〆切：平成 30 年 11 月 30 日（金）

以上

*ご質問等ございましたら、FD 委員（榊原・安谷・千田）にお問い合わせ下さい。

2018 年度公開授業参観報告書 入力フォーム

参観授業科目名		授業担当者	
	<input type="checkbox"/> 必修	先生	
	<input type="checkbox"/> 選択		

授業を参観して、ご自分の授業に取り入れたいと感じた教授方法や指導上の工夫
⇒

⇒	⇒
授業を参観したご意見・感想 及び改善策	授業中の学生の態度や動きに対する ご意見やご感想など

参観記録記入者	参観実施日				
先生	2018 年	月	日	曜日	限
	学舎			教室	

2018年度 開授業参観報告書 記入例

どちらかを一方をクリックして下さい

参観授業名には
学科・コース名は不

参観授業科目名	<input type="checkbox"/> 必修	授業担当者
	<input type="checkbox"/> 選択	安谷 元伸 先生

授業を参観して、ご自分の授業に取り入れたいと感じた教授方法や指導上の工夫

⇒

250字～300字程度で
ご記入下さい

⇒

見

200字～250字程度で
ご記入下さい

授業を参観したご意見・感想
及び改善策

⇒

本

200字～250字程度で
ご記入下さい

授業中の学生の態度や動きに対する
ご意見やご感想など

参観記録記入者	参観実施日				
先生	2018年	月	日	曜日	限
	学舎			教室	

2018 年度後期 授業参観報告書 目次

(敬称略)

開講学科	授業科目	授業者	参観者	番号
保育	保育者論	長谷 範子 ^(*)	合田 誠	6
	在宅保育	古田 信子 ^(*)	鍛治谷 静	7
	教育課程論	阪江 豪 ^(*)	香月 欣浩	8
	生活Ⅱ	金川 朋子	長谷 秀揮	9
	発達心理学Ⅱ	千田 耕太郎	鍛治谷 静	10
	障害児保育	金川 朋子	長谷 秀揮	11
	指導法の研究	山田 秀江	林崎 治恵	12
	言葉と表現Ⅱ	工藤真 由美	森 麻希子	13
	保育実習指導Ⅱ	長谷秀揮	山田 秀江	14
	言葉と表現Ⅱ	工藤真 由美	吉井 珠代	15
ライフ	接遇演習	服部 文彦	工藤真 由美	16
	医療事務のための医学知識Ⅰ	伊東 めぐみ	榊原 和子	17
	接遇演習	服部 文彦	赤田 太郎	18
	人間関係論	赤田 太郎	伊東 めぐみ	19
	キャリアプランニング	服部 文彦	奥田 玲子	20
	恋愛の心理学	赤田 太郎	服部 文彦	21
	ウェブプログラミング演習	平塚 聡 ^(*)	安谷 元伸	22

注:教員名の後の(*) 印は、非常勤であることを示す。

保育学科

参観授業科目名		授業担当者	
保育者論	<input checked="" type="checkbox"/> 必修	長谷 範子 先生	
	<input type="checkbox"/> 選択		

授業を参観して、ご自分の授業に取り入れたいと感じた教授方法や指導上の工夫

⇒「講義」形態にもかかわらず、「演習」的な授業を展開されていたのには少し驚いた。具体的には、テーマに基づいて小グループのディスカッションをさせ、その中の何グループから発表させている手法であった。

「講義」形態は50名を超える学生数のため、小グループに分かれての議論をする発想はなかったため、今後可能な範囲で取り入れてみたい。

⇒前述したように、多人数での「講義」形態であるため、小グループによる議論を可能にしているのは、担当教員が前期から引き続いた授業を担当して頂いており、学生との関係性ができているのも、この取り組みを可能にしていると感じた。

また、先生は意識して「主体的」取り組みであることを口頭で学生に促しておられ、その言葉に反応して小グループの発表を可能にしていた面もあるのではないかと感じた。

授業を参観したご意見・感想
及び改善策

⇒残念であったのは、集中できていない学生が散見され、私語が目立った場面が少し気になった。

しかし、先生は教壇の前に陣取って授業されるのではなく、必要に応じて教室内全体を巡回され、適宜学生に言葉かけをされ、それに対して学生も気持ちよく反応している場面も多々あり、これも前述したように、学生との関係作りができていたためと感じた。

授業中の学生の態度や動きに対する
ご意見やご感想など

参観記録記入者		参観実施日				
合田 誠 先生	先生	2018年	11月	14日	水曜日	3限
		清風学舎				402教室

保育学科

参観授業科目名		授業担当者	
在宅保育	<input type="checkbox"/> 必修	古田	先生
	<input checked="" type="checkbox"/> 選択		

授業を参観して、ご自分の授業に取り入れたいと感じた教授方法や指導上の工夫
⇒
教科書の要点のみを示し、コンパクトに解説。居宅訪問型保育という一般の保育所とは異なる環境で留意すべき事柄を学生がイメージしやすいよう、ひとつひとつ丁寧に、具体的に説明されていた。
後半はプリントにより、知識の定着と理解の促進を図る。さらにペアで話し合いながらイラストで描かれた家屋内外の危険箇所をチェック。乳幼児の思いがけない行動などにも触れ、これも具体的で注意喚起に効果的だと感じた。

⇒
ベビーシッター資格取得のためだけでなく、保育者としての心構えや保護者との信頼関係の築き方など、保育所保育などにも役に立つ内容が多くあり、選択科目ですがもっと多くの学生に受講してほしいと感じる授業でした。
参観させていただき、より具体的な履修ガイダンスができそうです。ありがとうございました。

授業を参観したご意見・感想
及び改善策

⇒
学生は終始集中できていたように見受けられた。ペアでの活動も積極的に意見を出し合っていた。

授業中の学生の態度や動きに対する
ご意見やご感想など

参観記録記入者		参観実施日				
鍛冶谷 先生	先生	2018年	11月	14日	水曜日	3限
		清風学舎			202教室	

保育学科

参観授業科目名		授業担当者	
教育課程論	<input checked="" type="checkbox"/> 必修	阪江 先生	
	<input type="checkbox"/> 選択		

授業を参観して、ご自分の授業に取り入れたいと感じた教授方法や指導上の工夫

⇒学生が考えた模擬保育を 12~14 名の子ども役学生に対して行っていました。それぞれの学生が自分なりの内容を考え、準備し実践していました。なお以下の点が素晴らしいと感じました。

- ① 次に先生役になる学生がスマホで模擬授業を撮影する
- ② 10~20 分を目標に設定保育をする
- ③ 模擬授業を受けた学生は評価表を記入し、コメントも書いて先生役の学生に渡す。
- ④ 先生役の学生は受け取った評価表と動画を後で見て、振り返りシートを次の授業で提出する。

⇒①記念ホールで授業を行なわれていました。

模擬保育のために可動式の机椅子をすべて廊下に出して行われたおかげで、学生は広々と動き、素晴らしい保育をしていました。

ここまでの準備をいとわず、行ってくださる阪江先生に感謝いたします。

その熱意を学生は感じ、本気で模擬保育に取り組んでいたと感じました。

授業を参観したご意見・感想
及び改善策

⇒ほとんど先生は声を発せず、指示も最小限ですが、学生は主体的に動き、だれることも遊ぶこともなく、スムーズに移動し、模擬授業をたのしんでいるようすでした。

また、客観的評価となる評価表も正直に書き、お互いで高めあっている姿が印象的でした。

授業中の学生の態度や動きに対する
ご意見やご感想など

参観記録記入者		参観実施日			
香月欣浩 先生	2018 年	11 月	20 日	火曜日	4 限
	清風学舎			6 階記念ホール	

保育学科

参観授業科目名		授業担当者	
生活Ⅱ	<input type="checkbox"/> 必修	長谷 秀揮 先生	
	<input checked="" type="checkbox"/> 選択		

授業を参観して、ご自分の授業に取り入れたいと感じた教授方法や指導上の工夫

○一人ひとりの名前を呼んで、指示、質問をしている
→指示を明確に出すことの大切さを改めて学びました。

○「マーカーもしくは、ペンを出して、線を引く準備して」と、細かな指示をして、文章内容を解説。→学生のペースに合わせて学習を進めることの大切さを学びました。

○DVD視聴：関連資料、記録用のメモ、感想プリントを準備されていました。
→漠然と見てしまいがちなので、メモがあることで、集中して見ることができると思いました。

○ネット情報の活用：最新の情報の活用は大切な観点だと思いました。

○否定することなく、間違えた回答に対しても、学生をフォローする返答をされていました。
→学生の学ぶ意欲を大切にしながら授業を進めることの大切さを学びました。

⇒2級こども環境管理士試験と関連させた授業内容で、学生も学びやすく、主体的に授業に取り組んでいると思えました。

板書が大きく見やすく書かれていました。前時の授業の板書を活用されましたが、毎時間ごとに板書された方がいいこともあるのではないかと、思いました。

**授業を参観したご意見・感想
及び改善策**

⇒欠席学生もあり、授業初めに、体調へ配慮した言葉かけをして、滑らかにスタートされており、よいことだと思いました。

学生からの質問に、対応する形で、丁寧に授業を進められていました。少人数ということもあり、学生もゆったりとした気持ちで、授業に取り組めていました。

**授業中の学生の態度や動きに対する
ご意見やご感想など**

参観記録記入者		参観実施日				
金川 朋子 先生	先生	2018年	11月	19日	月曜日	2限
		清風学舎			401教室	

保育学科

参観授業科目名	授業担当者
発達心理学Ⅱ	鍛治谷 静 先生
<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	

授業を参観して、ご自分の授業に取り入れたいと感じた教授方法や指導上の工夫

⇒

- ・パワーポイントの提示と配布物のプリントがきちんとリンクしていて、とても解りやすかった。
- ・先生のお話が滑らかで、すっと入ってくる。とても参考になった。
- ・要所、要所に心理学のプロとしての目線によるアドバイスやお話があり、心を引かれた。

⇒

- ・先生のプロとしての目線と、学生がとても集中していたことが印象に残った。
- ・鍛治谷先生の、学生からのレスポンスや双方向の会話がある授業もぜひ見せて頂きたいと思った。
- ・プレゼンも資料もお話もとても解りやすかったのだが、しっかり考えたり、調べたりしないと解らないような質問を交えてもよかったのではないかと感じた。

授業を参観したご意見・感想
及び改善策

⇒受講生は2限から5限まで授業があり、この授業は最終の5限目だったが、無駄なおしゃべりや寝る事もほとんど無く、とても集中出来ていたように感じた。

授業中の学生の態度や動きに対するご
意見やご感想など

参観記録記入者	参観実施日				
千田 耕太郎 先生	2018年	11月	21日	水曜日	5限
	清風学舎			203教室	

保育学科

参観授業科目名	授業担当者
障害児保育	金川 朋子 先生
<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	

授業を参観して、ご自分の授業に取り入れたいと感じた教授方法や指導上の工夫

⇒ 1. 前回の授業の振り返りを丁寧にされていて、授業の繋がりや連続性を大事にされているなど思いました。学生にとっても、振り返りをする事によって授業内容に興味関心をより深め、集中できるし、また前回の欠席者にとっても授業が分かり易くなり、大切なことだと改めて思いました。

2. パワーポイントを授業の節目や繋ぎで上手く使っていて、かつ一番後ろの席からでも見やすく、分かり易い点が素晴らしいと思いました。字の大きさやレイアウト、スペースの使い方、写真の活用についてなど、参考にさせていただいて自分の授業に取り入れていきたいと思いました。

⇒授業の進行が全体的にテンポ良く、アクティブな印象が残りました。前回の振り返りからその印象がありましたが、例えば学生への発問や言葉がけも、ポンポンと弾むようなテンポでされてリズムカルで、かつ要所には、分かり易く理解し易いパワーポイントを組み込みながら授業を進行されているので、学生の側からすると集中しやすく充実した授業ということになるのではないかと思います。時間的な余裕をさらに設け、質問や振り返りの時間をより充実すると学生の満足度もいっそう増すのではないかと思います。

**授業を参観したご意見・感想
及び改善策**

⇒5限目の授業ということもあってか、居眠りをする学生も若干見受けられましたが、適宜学生に声を掛けて励まし、授業に集中するように促されていました。

さらに数回、教壇を降りて学生の傍に行き、励ましの言葉を掛けたり、後方の学生の声を聴いたり、といったいわゆる机間巡視をととても丁寧にされていました。

その為もあってか、時間中よく授業に集中できている様子の学生がほとんどでした。

**授業中の学生の態度や動きに対する
ご意見やご感想など**

参観記録記入者	参観実施日				
長谷 秀揮 先生	2017年	11月	17日	金曜日授業	5限
	清風学舎			402教室	

保育学科

参観授業科目名	授業担当者
指導法の研究	山田 先生
<input checked="" type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	

授業を参観して、ご自分の授業に取り入れたいと感じた教授方法や指導上の工夫

⇒ 学生の発表に対しての評価項目を、発表者自身に決めさせるといった方法は今後取り入れていきたい。

決められた評価項目によって評価させるのではなく、学生自身が見てほしい点、頑張った点、或いは客観的な評価を知りたい点を考え伝達し、その評価を受けるといのは、学生本人の考えもわかり、たいへん有意義な評価方法だと感じた。

⇒学生のためを思っの授業構成をしていただき、たいへんありがたい。実践的な内容で、積極的に新しい教材を作成しようとする学生も多くおり、たいへん有意義な授業をしていただいている。

導入部分の実演と以後の保育の設定を説明するという流れであったが、保育設定の説明を忘れてしまう学生も何人か見受けられた。保育設定についての評価、或いは感想を書く欄を明示しておく、学生自身がしなければならないことがより明確になったのではないかと思われた。しかし、本来学生同士で「設定は？」という指摘ができるようになってほしいところである。クルーピングの机の移動をてきぱきと対応するなど含めて、そういった学生に育つよう、全教員が教育していく必要があると思われる。

**授業を参観したご意見・感想
及び改善策**

⇒2年生後期のこの時期、そして5限目ということもあり、行動に緩慢さがややあったが、すべきことにはきちんと対応していた。

慣れた学生同士ではあるが、実際にグループの皆の前で模擬保育を行うにも、やはり緊張と照れのある学生も見受けられる。実際に子どもたちの前で行う時は、また違った様子であろうと思われるが、イメージ力を働かせてそのように実演するという力も大切な力であることを学生が認識できると、さらに伸びていこうと思われた。先生に褒めていただいたら喜んでいた学生が印象的であった。終了の挨拶がなかったが、保育学科の授業前後の挨拶が2年生後期には身につく、すすんで挨拶をするような学生が一人でも多く育つように取り組む必要があると改めて思った。

**授業中の学生の態度や動きに対する
ご意見やご感想など**

参観記録記入者	参観実施日				
林崎 治恵	2018年	11月	26日	月曜日	5限
先生	清風学舎		小児保健実習教室		

保育学科

参観授業科目名	授業担当者
言葉と表現Ⅱ	工藤真由美 先生
<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	

授業を参観して、ご自分の授業に取り入れたいと感じた教授方法や指導上の工夫

⇒ 文章の基礎能力の向上を促すために漢字テストを定期的に取り入れており、授業冒頭の限定的な時間を利用することによって、より集中してトレーニングに取り組めるように時間配分をしていると感じた。配布プリントには本日の授業の狙いを明確に提示し、授業最後に学生の理解の度合いをセルフチェック（三段階）させており、理解度を客観的に把握することにより、教員自身が質の良い授業が提供できているか振り返ることができる。学生の状態をより細やかに把握できるよう工夫がされていた。授業開始時と終了時の変化を学生自身が客観的に把握することは、積極的な学びを促進するためにも必要不可欠だと思った。

⇒学生が前向きに授業に参加できるような柔らかい雰囲気があり、学生の様子や状態を見て言葉が吟味されていると感じた。「子どもの発達段階と絵本」というテーマで授業が展開されていたのだが、教材のプリントも学生のレベルに応じた理解しやすい内容となっており、また年齢別の対処法などがイメージしやすい構成になっていることから、実践に生きる学びがなされているように思った。実感を伴った理解の重要性がよくわかる授業構成だった。

**授業を参観したご意見・感想
及び改善策**

⇒全体的に学生は集中して授業に取り組んでいるように感じた。子どもの発達段階に応じた言葉等の認知の違いを学んだ後、総まとめとして絵本の読みかきのグループ活動をすることによって、知識だけではなく実感を伴った理解が促されているようにみえた。学生が自身の感性で言葉の表現をし、楽しみながら実体験を伴う学びがなされていたので、遊び＝学びという子どもにとって必要不可欠な要素は、大人になっても通じる場所があると再確認できた。

**授業中の学生の態度や動きに対する
ご意見やご感想など**

参観記録記入者	参観実施日				
森 麻希子 先生	2018年	11月	23日	木曜日	4限
	清風学舎			403教室	

保育学科

参観授業科目名	授業担当者
保育実習指導Ⅱ	長谷秀揮 先生
<input checked="" type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	

授業を参観して、ご自分の授業に取り入れたいと感じた教授方法や指導上の工夫
 ⇒ 授業の初めに全国保育士倫理綱領を唱和するのは、授業の雰囲気引き締まり、とてもよいといつも感じています。自分の授業でも幼稚園に関する事でそういった言葉を唱和できればいいと思いました。

書き込み式のプリントでの説明が始まると静かに学生は取り組んでいました。実習での注意事項を考え、書き込んでいました。聞かせるだけでなく、書かせる、発言させるなどの動きが必要だと感じ、取り入れていきたいと思います。

⇒最後の実習ガイダンスということで、内容もよくわかり、理解している感じでした。大切なポイントに絞って説明されていたので分かりやすかったです。

教育実習指導の中で違った説明をしていた箇所があったので（印鑑を二つ用意しておく・開始 20 分前に到着する等）

しっかり実習担当者間で連携をとり、学生が混乱しないように、共通にできるところは改善していこうと思いました。

授業を参観したご意見・感想
及び改善策

⇒4 回目の実習のガイダンスということで、理解はしっかりできているのですが、その分、慣れのようなものがあり、悪い姿勢で聞く学生も中にはいました。（そういう学生に限ってミスをしたりします。）私の授業でも同じような態度をとる学生がいるので、細かな指導が必要だと思いました。

授業中の学生の態度や動きに対する
ご意見やご感想など

参観記録記入者	参観実施日				
山田秀江 先生	2018 年	11 月	26 日	月曜日	4 限
	清風学舎			202 教室	

保育学科

参観授業科目名		授業担当者	
言葉と表現Ⅱ	<input type="checkbox"/> 必修	工藤 真由美 先生	
	<input checked="" type="checkbox"/> 選択		

授業を参観して、ご自分の授業に取り入れたいと感じた教授方法や指導上の工夫

⇒

授業（90分）の組み立て、時間配分の全てにおいて、自分自身の授業に取り入れたい（魅力的）と感じました。

授業は、「予習の確認：漢字テストとその後の学生間での採点」、「授業内容（演習の方法）：絵本の実物を提示しての説明と絵本読み聞かせのグループ演習」、「授業の理解度の確認：その場で感想や理解度を記述させて回収する」という構成でした。

⇒

上記の、特に、「予習の確認」について、大いに参考になりました。

私自身は、シラバスに予習の内容を記入してはいるものの、授業開始時に一部の学生から聴取する程度（復習に相当する毎回のレポートに、予習の記述欄がある）で、疎かになりがちでしたが、この授業を参観して、一つのヒントを得ることができました。

授業を参観したご意見・感想
及び改善策

⇒

ほぼ全員が寝ることなく、私語も少なく、授業に集中できていました。

やはり、理解しやすい授業の組み立て（授業運営）の見事さに他ならないと感心しながら授業参観させていただきました。

授業中の学生の態度や動きに対する
ご意見やご感想など

参観記録記入者		参観実施日				
吉井 珠代 先生	先生	2018年	11月	22日	木曜日	4限
		清風学舎			403教室	

ライフデザイン
総合学科

参観授業科目名		授業担当者	
接遇演習	<input type="checkbox"/> 必修	服部文彦 先生	
	<input checked="" type="checkbox"/> 選択		

授業を参観して、ご自分の授業に取り入れたいと感じた教授方法や指導上の工夫

⇒前半
「電話検定」に対応した、電話対応の仕方についてプリントに書き込みながら、解説を聞き、対応練習をしていく。学生はまじめに実施。

⇒中盤
「サービス接遇検定」の受験対策。今回は実際に学生に試験官にならせることで、普段評価される側のみ視点で学んでいるのが、評価する側の視点に立つことで、どのようにみられ評価されるのかがわかるので良い。
学生同士の学び合いにより、学習効果が高まる。

⇒終盤
実際のテスト

⇒アクティブラーニングで、学生同士が学びあう姿は大変良かった。
ただ、途中で緊張感がなくなるので、放任ではなく見守る、適所での助言、指示、軌道修正は必ず必要。

⇒一つ一つの動きに対しての都度のコメントや指示、いい直しや提案などが必要。すべて終わってからの指導では印象に残りにくい。

⇒姿勢、お辞儀の角度、言葉遣いなどの細かなところはそれぞれの学生が異なる。許容範囲とは思えない部分もあるので、細かいところの徹底指導が合格につながると思うのでお願いしたい。 授業を参観したご意見・感想
及び改善策

⇒役割に当たっていない、自分の出番待ちの状態、私語が多いので、ロールプレイングが聞き取りにくい（評価しにくいのでは？）
他者の取り組みを見学するのも学習のうちであると指導すべき。
⇒教員との言葉のやり取りが、ためぐちばかりで、マナー教育の応用授業としては残念。

授業中の学生の態度や動きに対する
ご意見やご感想など

参観記録記入者		参観実施日				
工藤真由美 先生	先生	2018年	11月	21日	水曜日	4限
		清風学舎			301教室	

ライフデザイン
総合学科

参観授業科目名		授業担当者	
医療事務のための医学知識 I	<input type="checkbox"/> 必修	伊東 めぐみ 先生	
	<input checked="" type="checkbox"/> 選択		

授業を参観して、ご自分の授業に取り入れたいと感じた教授方法や指導上の工夫
⇒授業開始後に前回の確認テストの実施と解答。また、授業終了直前の振り返りテストの実施と解答。この2点は、知識の定着という点で有効と思いました。

⇒90分間の授業展開を綿密に組み立てられていることがよく解る授業でした。
特に、学生の理解を深めるために、図などを見せたりして丁寧に説明をされており、大変参考になりました。

授業を参観したご意見・感想
及び改善策

⇒学生は、私語もなく真面目な態度で、勉学への意欲を強く感じました。

授業中の学生の態度や動きに対する
ご意見やご感想など

参観記録記入者		参観実施日			
榊原 和子 先生	2018年	11月	21日	水曜日	3限
	清風学舎				401教室

ライフデザイン
総合学科

参観授業科目名		授業担当者	
接遇演習	<input type="checkbox"/> 必修	服部 文彦 先生	
	<input checked="" type="checkbox"/> 選択		

授業を参観して、ご自分の授業に取り入れたいと感じた教授方法や指導上の工夫
⇒実際の接遇検定準1級の試験を再現された講義を学生中心でされていたのですが、試験官役と受験者役を経験することで、どのように見られているか、どのようにすればよいかをどちらの立場からも理解できると感じました。自分の講義でも心理検査の検査役と被験者役と両方を経験させることで、その技術が身につくと感じました。

⇒また、学生が先生に試験のことについて質問したときに、先生はその答えを言わず「どう思う」と聞き返したのですが、試験の基準についての質問だったので、そのまま学生の質問に答えたらよいのではないかと思いました。

授業を参観したご意見・感想
及び改善策

⇒学生の集中力が少し途切れたところもあり、そのときに特に先生は気にしておられなかったことが気になりました。学生は、自主的には動けず先生の指示を待って行動していたのですが、それは先生の指示が必要な部分だったと思うので、速やかに指示しても良いと思いました。

授業中の学生の態度や動きに対する
ご意見やご感想など

参観記録記入者		参観実施日			
赤田 太郎 先生	2018年	11月	14日	金曜日	4限
	清風学舎				301教室

ライフデザイン
総合学科

参観授業科目名		授業担当者	
人間関係論	<input type="checkbox"/> 必修	赤田 太郎	先生
	<input checked="" type="checkbox"/> 選択		

授業を参観して、ご自分の授業に取り入れたいと感じた教授方法や指導上の工夫
 ⇒ 今日の授業で行うことを、最初に大まかに説明されており、それによって受講生としては授業を聞く段取りができるので良いと思いました。
 授業は、レジュメを配布して、その中にキーワードとなる単語を書き入れていくという方法で進められていましたが、長々とした文章ではなく、重要な単語を適度に記入していく形で、書くことに負担がかかり過ぎず、先生の説明もきちんと聞け、尚且つ重要な単語はインプットしていくために自分で書くということができており、その配分がとても良いと感じました。自分の授業でも、レジュメに書き入れていく方法をとっている科目もありますが、書く量の配分について、改めて考えるきっかけとさせていただきました。

⇒ 最初に受講生が、自分のアサーション度を計ってみることを行っておられて、アサーションについて自分自身のこととして体感できるのでとても良いと感じました。
 受講生にとって身近に感じられるような表現で(例:無口な両親の元で暮らすと表現力が身につけにくい、おしゃべりな両親の元で暮らすと表現の方法を自然と身につけられる)、アサーションについて語られていることで、講義内容を自分の身近に引き寄せて感じられていたように思いました。

授業を参観したご意見・感想
及び改善策

⇒ 社会人リフレッシュ教育講座の第4回目の講義でもあるため、社会人の方が数名入られていたこともあったので、学生の授業態度が良ければいいなあと思っていましたが、全員非常に真面目に、私語もなく、講義に取り組んでいて素晴らしいと思いました。
 受講生数は、決して少なくない中、この環境を維持するのは容易ではないと思いますが、スムーズで理解しやすい内容、聞きやすい話し方によって保たれていると感じました。

授業中の学生の態度や動きに対する
ご意見やご感想など

参観記録記入者		参観実施日				
伊東 めぐみ 先生	先生	2018年	11月	16日	金曜日	4限
		清風学舎			401教室	

ライフデザイン
総合学科

参観授業科目名		授業担当者	
キャリアプランニング	<input type="checkbox"/> 必修	服部 文彦 先生	
	<input checked="" type="checkbox"/> 選択		

授業を参観して、ご自分の授業に取り入れたいと感じた教授方法や指導上の工夫

⇒集団面接実践 1、実際の面接を想定した実践的な授業であった。
 テンポ良く学生に質問を行い、スムーズに答えられない場合には、一定の時間で切り上げ、次の機会に頑張るように励ましていた。授業展開のスピード、学生への声掛けなどが参考になった。
 また、集団面接自己チェックシートでは、要点の振り返りの記入欄、学生相互で評価し合う記入欄、集団模擬面接を受けた感想の記入欄を設けており、復習や振り返りがしやすくなっていた。このような形式は、自身の演習や授業の中のアクティブラーニングに取り入れたいと思う。

⇒実践的で、緊張感もあり、学生が真剣に面接に取り組んでいてとても良い印象でした。
 初めての集団面接とのことでしたので、まずは一人ひとりが、実際に経験できたことが大きな収穫ではないかと思いました。もし、あえて改善ということを考えるのであれば、それぞれの面接の質問時間をもう少し短くし、実際の面接を教材として、教員の感想や講評を加え、「より効果的な面接にするためにもうひと工夫するなら」というようなアドバイスを入れれば、なお、学生の学びが深まるのではないかと思います。

授業を参観したご意見・感想
及び改善策

⇒自分が面接に入っているときは真剣に取り組めていましたが、他の学生の面接演習のとき授業に集中していない学生や、「集団模擬面接自己チェックシート」に十分に取り組めていない学生が見受けられました。これは、着席の場所が面接演習の場所から遠いこと、学生全員が同じ向きであることに原因があるように思います。例えば、面接以外の学生が全員先生の後ろの位置に、先生と同じ向きで（面接官のように）着席し、チェックシートを見ながら面接を評価するような形にすれば、より緊張感が高まり、授業時間を通して授業に集中し、お互い学びの効果が上がるのではないかと思います。

授業中の学生の態度や動きに対する
ご意見やご感想など

参観記録記入者		参観実施日				
奥田 玲子 先生	先生	2018年	11月	24日	土曜日	2限
		北条学舎			第4教室	

参観授業科目名		授業担当者	
恋愛の心理学	<input type="checkbox"/> 必修	赤田 太郎	先生
	<input checked="" type="checkbox"/> 選択		

授業を参観して、ご自分の授業に取り入れたいと感じた教授方法や指導上の工夫
 ⇒「夫婦の関係」に関して、実際の夫婦の会話でキレル内容をビデオで鑑賞した。男女の脳の構造が違うのは、少し知っていたが実際に男性ホルモンや女性ホルモンに関して詳しく講義を受けたのは初めてだったがとてもわかりやすく初心者の私でも理解できた。実際に夫婦のキレル状況をビデオ鑑賞して、ただ単に鑑賞するのではなく、その都度ビデオを止めて解説し、どのような問題点や男女の感情の違いや妻がなぜキレルのか、夫の感情の受け方など脳の構造の図で解説もあり、視覚で実際に見てその後どのような状況解説、脳の構造、感情的か論理的かの男女の脳の働き方の違い等とても順序良く講義をしてくれた。このように今後は視聴覚機器を活用した有効な講義をしていきたいと感じた。さらに多くの関係するビデオ教材の発掘をしていきたい。

⇒専門的な心理学であったが、ビデオ鑑賞でより具体的に状況を把握できる工夫があり。ただ単に鑑賞ではなく時折解説ありビデオを止めて説明してくれたことや問題点と現在の状況を黒板に記入してくれたことでよりビデオの内容が把握して見ることができた。
 さらに問題点に関しても考えることができた。

授業を参観したご意見・感想
及び改善策

⇒「夫婦の関係」に関して、実際の夫婦の会話でキレル内容をビデオで鑑賞した。解説を時折することで、学生がとても興味を持ってとても真剣に鑑賞し、今後の自分たちの親や男女の脳の構造の違いによる行動パターン等同じ感情をいただくのではなく、夫婦の大切さや今後の男女間の考え方の違いは脳の構造にも関係があり、論理的か感情的かということがあることを理解したと授業後の学生が語っていた。

授業中の学生の態度や動きに対する
ご意見やご感想など

参観記録記入者	参観実施日				
服部 文彦 先生	2018年	11月	28日	水曜日	1限
	清風学舎			301教室	

ライフデザイン
総合学科

参観授業科目名		授業担当者	
ウェブプログラミング演習	<input type="checkbox"/> 必修	平塚 聡 先生	
	<input checked="" type="checkbox"/> 選択		

授業を参観して、ご自分の授業に取り入れたいと感じた教授方法や指導上の工夫

⇒プロジェクトにソースコードを表示し、指し棒を効果的に使い学生に対して説明をしているため、分かりやすい。基本的なことではあるが、資料を提示後説明のみを行うことが自身の授業でよくあるため、改めて説明時に意識していきたい。

⇒表示資料の背景が白、文字や図形が黒でシンプルに構成しているため、後ろからでも資料が非常に見やすかった。提示する資料の色などについつい手をかけてしまうこともあったため、内容によっては視認性の高い内容とする必要性を改めて感じた。

⇒3問3分で行う小テストを授業最初に設定することで、学習の振り返りや本字に学習する内容に意識を向けることができているので、内容によっては取り入れていきたい。

⇒淡々と説明が進むため、html という学生によってはなじみが薄い内容、知識を定着させるには、意識付けが弱いのではないかという印象を受けた。

⇒説明時に学生の側を向くことが極端に少ないため、学生の理解度の把握ができていない可能性があるように感じた。よほど IT 関係を学んだ学生でなければ難しい内容を含むため、説明する内容によっては、置き換えや学生の理解補助となる安易な言葉による説明を加えるなどが必要と思われた。

⇒補足資料を複数用意してあり、学生の理解の助けとなっていると感じた。授業を参観したご意見・感想及び改善策

⇒説明時にはぐったりとしている学生も見られたが、ソースコード作成時は皆しっかりとパソコンに向き合って作業をしていた。作業内容の説明速度が少し早いため、必死についていっている学生も見られたが、質問するタイミングを逃して困っている学生も見られた。それらの学生はフォロー担当の助手より補助を受けて作業を進めていた。学生らの作業速度を考えて、作業説明を行っていく必要があると感じた。

⇒難しい内容であったものの、誰も途中で投げ出さず、しっかりと作業に取り組んでいた。

授業中の学生の態度や動きに対するご意見やご感想など

参観記録記入者		参観実施日				
安谷 元伸 先生	先生	2018 年	11 月	5 日	月曜日	1 限
		北条学舎			第2パソコン教室	